

令和元年度 小学校教員向け環境教育研修会 実施報告

「やってみよう！環境学習プログラム」

第4回「川はごみの通り道～荒川からごみ問題が見えてくる」実施報告(テーマ：ごみ)

□実施日時 令和元年8月5日(月) 10時00分～16時15分

□受講者数 13名(教員9名、研修・聴講者4名)

□実施場所 タワーホール船堀、江戸川区船堀周辺の荒川河川敷

□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義及び実習

(ゲストティーチャー:NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム 五十嵐 実氏)

(1) 荒川河川敷でのごみ拾い・振り返り

- ・ごみ拾い時の分別方法等、注意事項の説明。
- ・グループ毎に、20分間ごみ拾いを実施。終了後、グループで振り返り。





【午後】

(2) 講義「プラスチックごみ問題の基礎知識」

- ・ 荒川クリーンエイド・フォーラムの活動紹介
- ・ 「調べるごみ拾い」とごみの現状。荒川で拾われるごみの8割近くが容器包装。
- ・ ごみの発生源は街。街ごみ→川ごみ→海ごみ
- ・ プラごみが引き起こす3つの大きな問題：2050年問題、マイクロプラスチック問題、生物多様性保全問題。
- ・ 世界各国でも、レジ袋の有料化や使用禁止などの動き。
- ・ 個人がライフスタイルを見直して社会を変える。



3. 環境学習プログラム「ごみについて考えよう模擬授業」の紹介及び実習

(講師：NPO 法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

(1) 環境学習のポイント ～体験の重要性・森は命のみなもと～

- ・子どもたちは、体験を通して、「森は命のみなもと」であることを知り、自然を大切に作る人間に成長する。
- ・環境学習には知識と体験の相互作用が大切。教科学習の土台があるから環境学習ができる。
- ・環境学習は自分の問題として気づきを促す手法。暮らしの中や地域での実践、様々な人と関わることによる成長や感動、ふるさと意識の醸成にもつながる。

(2) ごみの学習のポイント解説

- ・なぜごみが出てくるかを考えることがスタート。
- ・3Rが日常生活に定着しているか、自分自身が出来ているかを確認。その上で、ごみで何が問題なのかを考える。
- ・町探検をして自分の目でごみ問題を確認するとともに、話し合いを通して自分が何をできるか考える。

(3) 「ごみについて考えよう」模擬授業

① 「ごみについて考えよう」紙芝居編

- ・今、問題になっているマイクロプラスチックごみについて、紙芝居という表現手法を通して考える体験型プログラム。



②「ごみについて考えよう」町探検編、もったいない編の紹介

- ・町探検編：くらしや地域のごみについて、子どもたちがウォッチングやインタビューをして調べ、評価するプログラム。
- ・もったいない編：くらしの中のごみについて、子どもたちが調査したり、インタビューをしたりする活動を通して、ごみとは何かを考えるプログラム。

(4) まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し、受講者で情報を共有。



(発表意見の例)

- ・海外でも川ごみが問題になっている。今回の講座をきっかけに、取り組めていたらと思った。
- ・現地に行っておみを拾ってみたいと実感がわかないと思った。
- ・ポイ捨てしているつもりはなくても、結果的に、川ごみにつながっているものもある。
- ・校外学習で取り入れるにしても、授業時数やバスの借り上げをどうするかなど問題がある。その中でもできることをやっていけたらと思う。例えば、登校の間にどんなごみが落ちているかをまとめるなど。

4. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後、解散